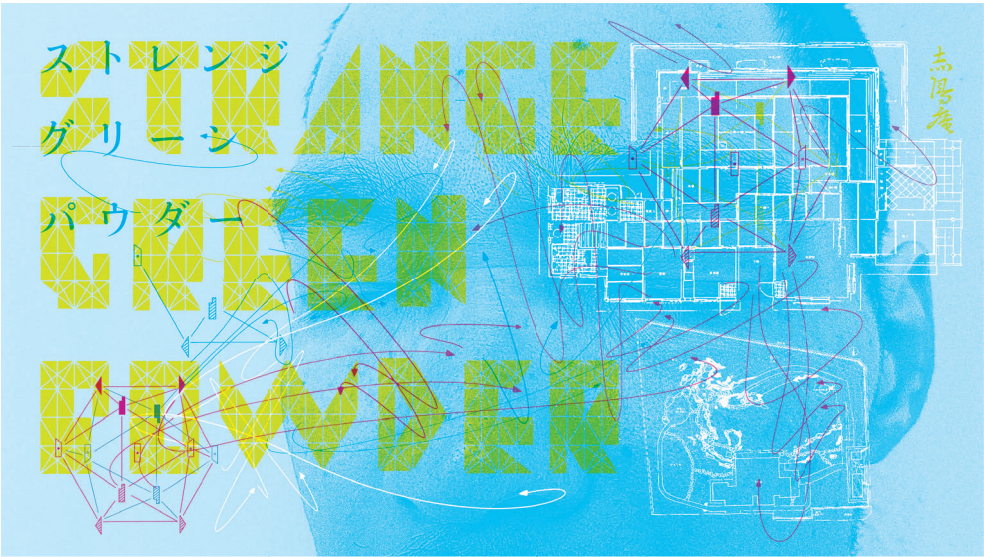




「Strange Green Powder」

振付・演出：神村 恵

出演：武本拓也、神村 恵

音楽：高木 生 (tnwh/noobtastic)

美術：ミルク倉庫+ココナッツ

舞台監督：河内 崇、齊藤梅生

ビジュアル：松本直樹(ミルク倉庫+ココナッツ)

記録動画：中川 周

記録写真：梶原あずみ

制作：岩間麻衣子、荒川真由子(フェスティバル/トーキョー)

“Strange Green Powder”

Choreographed and Directed by Megumi Kamimura

Performers: Takuya Takemoto, Megumi Kamimura

Music: Arata Takagi (tnwh/noobtastic)

Stage Design: Miruku Souko + The Coconuts

Stage Managers: Takashi Kawachi, Umeo Saito

Graphic Design: Naoki Matsumoto (Miruku Souko + The Coconuts)

Video Documentation: Shu Nakagawa

Photography: Azumi Kajiwara

Production Coordinators: Maiko Iwama, Mayuko Arakawa (Festival/Tokyo)

フェスティバル/トーキョー実行委員会
顧問 野村 高 (公社)日本芸能実演家団体協議会会長 能楽師
名誉実行委員長 高野之夫 豊島区長
実行委員長 福地茂雄 (公財)新国立劇場運営財団 顧問
アサヒビール株式会社 社友
副実行委員長 市村作知雄 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 顧問
藤田 力 豊島区文化商工部長
東澤 昭 (公財)としま未来文化財団 常務理事/事務局長
委員 尾崎元規 (公社)企業メセナ協議会 理事長
花王株式会社 顧問
齋合純子 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 教授
近藤佳代子 アサヒグループホールディングス株式会社CSR部門
サステナビリティ部門 セネラルマネジャー
鈴木正美 東京商工会議所豊島支部 会長
永井多恵子 公益財団法人せたがや文化財団 理事長
渡邊圭介 豊島区文化商工部文化デザイン課長
岸 正人 (公財)としま未来文化財団 劇場運営課長
澤池奈緒子 (公財)としま未来文化財団
あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター) 支配人
米原品子 NPO法人アートネットワーク・ジャパン 理事長
長島 確 フェスティバル/トーキョー ディレクター
河合千佳 フェスティバル/トーキョー 共同ディレクター
葦原門花 フェスティバル/トーキョー 事務局長
監事 能登絹代 豊島区総務部総務課長
法務アドバイザー 堀井建築、北澤尚登(特選通り法律事務所)

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

ディレクター 長島 確
共同ディレクター 河合千佳
事務局長 葦原門花

制作 荒川真由子、松宮俊文、武田佑子、新井雅業、岡崎由実子、
神永真美、平田幸来、藤井友理、長田崇史、西宮春香、
山縣昌雄、岩間麻衣子、TASKO.inc(小森あや、加藤夏帆)
森川清成、金井美希、松波春奈、鈴木千尋

制作アシスタント 小倉明紀子
広報 神永真美、岡崎由実子、細川浩伸、植田あす美

票券 武井和美
河野 遙
票券アシスタント 吉田幸恵
渉外 堤 久美子、
株式会社countroom(五藤 真、中山恭一、信國輝彦)
米原品子、藤島麻希

総務 宮川英司
技術監督 横川奈保子
技術監督アシスタント 木下尚己(株式会社ファクター)
照明コーディネーター 相川 晶(有限会社サウンドウィーズ)
音響コーディネーター 高田 唯 (Allright Graphics)
アートディレクション 北條 舞 (Allright Graphics)
デザインコーディネーター 山田智美、齊藤拓実 (Allright Graphics)
デザイン イラスト 芳賀あきな
PR動画、音楽 東郷清丸 (Allright Music)
PR動画 デイノサウラ
ウェブサイト 相澤 俊 (株式会社Mtame)
海外広報・翻訳 ウィリアム・アンドリュース
コピーライティング 鈴木理映子
特設ブログ・キレター 小山ひとみ

主催 フェスティバル/トーキョー実行委員会
豊島区/公益財団法人としま未来文化財団/NPO法人アートネットワーク・ジャパン、
東京芸術祭実行委員会(豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/
トーキョー実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウ
ンシル東京))

オープニングプログラム主催 文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
「トランスフィールド from アジア」共催 国際交流基金アジアセンター

協賛 アサヒグループホールディングス株式会社、株式会社資生堂
後援 外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、J-WAVE 81.3 FM
西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、サンシャインシティ、ジュンク堂
書店池袋本店、株式会社ヒューマックスシネマ、理想科学工業株式会社、有限会社アッ
プリング

協力 東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、一般社団法人豊
島区観光協会、一般社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会、池袋西口商店街
連合会、特定非営利活動法人ゼファール池袋まちづくり、ホテルメトロポリタン、ホテルグ
ランドシティ、池袋ホテル会、サンシャインシティプリンスホテル、リソルホテル株式会社
株式会社ボスター・ハリス・カンパニー、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

宣伝協力 株式会社ボスター・ハリス・カンパニー、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

令和元年度文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業
(豊島区国際アート・カルチャー都市推進事業)

オープニングプログラムは、「2019年度日本博を契機とする文化資源
コンテンツ創成事業」として、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
との主催により開催いたします。

フェスティバル/トーキョー19は東京芸術祭2019の一環として開催いたします。

フェスティバル/トーキョー19は東アジア文化都市2019豊島と連携して開催いたします。

フェスティバル/トーキョー19は日本・ポーランド国交樹立100周年記念事業に参加しています。



発行：フェスティバル/トーキョー実行委員会 〒171-0031東京都豊島区目白5-24-12 旧真和中学校4F TEL: 03-5961-5202 FAX: 03-5961-5207 <https://www.festival-tokyo.jp/19.html>
編集：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局



Festival/Tokyo Executive Committee

Advisor:
Man Nomura (Chair, Japan Council of Performers Rights & Performing Arts Organizations; Noh actor)

Honorary President of the Executive Committee:
Yukio Takano (Mayor of Toshima City)

Chair of the Executive Committee:
Shigeo Fukuchi (Advisor, New National Theatre Foundation; Senior Alumnus, Asahi Breweries, Ltd.)

Vice Chairs of the Executive Committee:
Sachio Ichimura (Adviser, NPO Arts Network Japan)
Chikara Fujita (Director, Culture, Commerce and Industry Division, Toshima City)
Akira Touzawa (Secretariat Director, Toshima Mirai Cultural Foundation)

Committee Members:
Motoki Ozaki (President, Association for Corporate Support of the Arts; Corporate Advisor, Kao Corporation)
Sumiko Kumakura (Professor, Graduate School of Global Arts, Tokyo University of the Arts)
Kayoko Kondo (General Manager, Sustainability Section, Asahi Group Holdings, Ltd.)
Masami Suzuki (Chair, Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima)
Tsuko Naga (Chair, Setagaya Arts Foundation)
Keisuke Watanabe (Director, Cultural Design Section, Culture, Commerce and Industry Division, Toshima City)
Masato Kishi (Executive Manager, Toshima Mirai Cultural Foundation)
Naoko Hasuike (Toshima Mirai Cultural Foundation; Executive Director, Owlspot Theatre / Toshima Performing Arts Center)
Akiko Yonehara (Representative, NPO Arts Network Japan)
Kaku Nagashima (Director, Festival/Tokyo)
Chika Kawa (Co-Director, Festival/Tokyo)
Madoka Ashihara (Administrative Director, Festival/Tokyo)

Supervisor:
Kinuyo Noto (Director, General Affairs Section, General Affairs Division, Toshima City)
Legal Advisors:
Kensaku Fukui, Hisato Kitazawa (Kotto Dori Law Office)

Festival/Tokyo Executive Committee Secretariat

Director: Kaku Nagashima
Co-Director: Chika Kawai
Administrative Director: Madoka Ashihara

Production Coordinators:
Mayuko Arakawa, Toshifumi Matsumiya, Yoko Takeda, Wakana Arai, Yumiko Okazaki, Mami Kaminaga, Saki Hirata, Yuuri Fujii, Takashi Osada, Shogo Shinomiya, Masao Yamagata, Maiko Iwama, TASKO inc.(Aya Comori, Naho Kato)
Production Assistants: Kiyonari Morikawa, Miki Kanai, Haruna Matsunami, Chihiro Suzuki

Public Relations Director: Akiko Ogura
Public Relations: Mami Kaminaga, Yumiko Okazaki, Hironobu Hosokawa, Asumi Ueda

Ticket Manager: Kazumi Takei
Ticket Administration: Haruka Kawano
Liaison Officer: Yukie Yoshida
Accounting: Kumiko Tsutsumi, countroom (Makoto Gotoh, Kyoichi Nakayama, Teruhiko Nobukuni)
Administrators: Akiko Yonehara, Maki Fujishima

Technical Director: Eiji Torakawa
Assistant Technical Director: Naoko Yokokawa
Lighting Coordination: Naoki Kinoshita (Factor Co., Ltd.)
Sound Coordination: Akira Aikawa (Sound Weeds Inc.)

Art Direction: Yui Takada (Allright Graphics)
Design Coordinator: Mai Hojo (Allright Graphics)
Design: Tomomi Yamada, Takumi Saito (Allright Graphics)
Illustrations: Akina Haga
PR Video Music: Kiyomaru Togo (Allright Music)
Publicity Video: Dino Sato
WebSite: Shun Aizawa (Mtame, Inc.)

Overseas Public Relations, Translation: William Andrews
Copywriting: Rieko Suzuki
Chinese Program Curator: Hitomi Oyama

Organizers: Festival/Tokyo Executive Committee (Toshima City, Toshima Mirai Cultural Foundation, NPO Arts Network Japan [NPO-ANJ]),
Tokyo Festival Executive Committee (Toshima City, Toshima Mirai Cultural Foundation, Festival/Tokyo Executive Committee, Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture [Tokyo Metropolitan Theatre & Arts Council Tokyo])

Opening Program organized by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan and Japan Arts Council
Transfired from Asia co-organized by the Japan Foundation Asia Center

Sponsored by Asahi Group Holdings, Ltd., Shiseido Co., Ltd.
Endorsed by the Ministry of Foreign Affairs, GEIDANKYO, J-WAVE 81.3 FM
Special cooperation from SEIBU IKEBUKUROHONTEN, TOBU DEPARTMENT STORE IKEBUKURO, TOBU RAILWAY CO., LTD., Sunshine City, Junkudo Ikebukuro, HUMAX CINEMA INC., RISO KAGAKU CORPORATION, UPLINK

In cooperation with Tokyo Chamber of Commerce and Industry Toshima, Toshima City Shopping Street Federation, Toshima City Federation, Toshima City Tourism Association, Toshima Industry Association, Toshima Corporate Taxpayers' Association, Ikebukuro Nishiguchi Shopping Street Federation, NPO Zephyr, Hotel Metropolitan Tokyo Ikebukuro, Hotel Grand City Ikebukuro, Ikebukuro Hotel Association, Sunshine City Prince Hotel, RESOL HOTEL Co., Ltd.

PR Support: Poster Hari's, The Tsubouchi Memorial Theatre Museum, Waseda University

Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2019
Opening Program organized with the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan and Japan Arts Council
Festival/Tokyo 2019 is organized as part of Tokyo Festival 2019.
Festival/Tokyo 2019 is held in partnership with Culture City of East Asia 2019 Toshima.
Festival/Tokyo 2019 is an associated program in the 100th Anniversary of the Establishment of Diplomatic Relations between Poland and Japan in 2019.

ストレンジ・グリーン・パウダー

Strange Green Powder

振付・演出：神村 恵

Choreographed and Directed by Megumi Kamimura

10.24 Thu—10.27 Sun

豊島区立目白庭園 赤鳥庵

Sekicho-an (Mejro Garden)

フェスティバル/トーキョー 19 主催プログラム

FESTIVAL / TOKYO



本プログラムへのアンケートへ
ご協力をお願いします。
アンケートフォームはこちら→



茶室の中で感覚が目覚める

“Strange Green Powder” チーム インタビュー

神村恵×武本拓也×宮崎直孝(ミルク倉庫+ココナッツ)×高木 生

フェスティバル/トーキョー19(以下、F/T)の全プログラム中、もっとも謎に満ちた作品と囁かれているのが、ダンサー・振付家の神村恵による『Strange Green Powder』だ。茶室の中で行われるということだけが決まっていた本作の姿が、いよいよ像を結び始めた。神村と武本拓也というふたりのダンサーが、「ミルク倉庫+ココナッツ」のしつらえる舞台装置の中で、高木生の作る音楽を伴いつつ、観客の感覚や意識を攪乱するという。しかし、それはいったいどんな発想に基づき、どんな仕掛けを秘めたものなのか。制作中の4人(「ミルク倉庫+ココナッツ」からは宮崎直孝)に話を聞いてみた。



——今回の“Strange Green Powder”は、どういうことをしようとしている作品なのでしょう。

神村 抹茶っていうのは、カフェインの塊だと考えると、もともとは一種のドラッグのようなものとも言えると思うんです。人間って、たぶん目の前にある現実ではないものに意識をもっていくツールを求めているんですよね。そして、みんなで狭くて四角い空間に集まって、抹茶っていう圧縮された飲みものを飲みつつ、それぞれが音とか匂いとか味覚とかに感覚を向けていって、そこで意識の網目のようなものができあがるという状況が面白いですよね。

実は今回の作品は、まず場所の決定が最初だったん

です。場所が茶室ではあるんですが、最初はその特殊性にはあまりよらないで作ろうと思ってました。でも、実際に茶席に参加してみたら、茶席という形式に興味を持ちました。狭い部屋の中に掛け軸や焼き物や花を置いて——これって一種の引用ですよね——、ふだんとは違うコミュニケーションをするという形式が、劇場で作品を見ることにちょっと近いなと思って。

それで、掛け軸とか花のように、美術の装置や音楽を茶室に置いてみたり、ダンスも同じように扱えないかと考えました。今回ごいっしょするミルク倉庫さんと高木さんは前に作品で関わったことがあって、武本さんは今回が初めてですけど、それぞれ作品なり作家性を借りてきて並べてみるというところから考え始めました。

——武本さんは、神村さんから今回どういうふうに出演を頼まれたんですか。

武本 いきなり声をかけられたんです。7月に早稲田でやった僕の公演(「7月の水曜夜」)を見て、そこでいきなり、ですね。

僕はダンサーではないんですけど、やっていることはどっちかというパフォーマンスみたいな感じなんです。毎日1時間ずつ部屋の中をゆっくり歩く、みたいなことをやっていて、公演でも1時間くらいゆっくり歩いています。

今回は最初、お茶をモチーフにするとか、いろいろなものを引用するとかということは聞いていて、そういうところからいっしょに考えていけないかという提案は最初に受けていました。僕としては、けっこう「もの」みたいに、掛け軸とか茶器みたいなものと同じレベルでかたちでいるイメージなのかなと。

神村 最初はそういうイメージだったんですけどね(笑)。

——神村さんと武本さんの関係性は、どんなものになりそうですか？

神村 主客みたいな関係はありかなと考えてますね。そうすると見に来たお客さんが、もうひとつ外側のお客になるというか、「見る一見られる」という関係に、もうひとつ層を作れるとも思ったんですが、実際はまだ探り中です。

神村 ミルク倉庫の作品は、因果関係が直線的につながっていきそうでつながっていなさうなところがあるんです。全体として関係してるんだかしてないんだかわからなくて、ふわっとした浮いているような感じもあって、ちょっと今回の作品に近いなということをお願いしています。

宮崎 今の因果関係のお話は、わりと最近の作品にある傾向ですね。力学的な関係がありながら、それが相互に嵌入して、見ているとどこに力がかかっているのかわからな



「workshop」より ©shu Nakagawa

いみたい、見ていると意識が散らされるような作品です。今回イメージされているのは、たぶん2年くらい前に作った作品かなと思います。作品全体としては、デバイスを仕込んだものがランダムなタイミングで動く、みたいなインストールーションでしたね。

——今回のテーマの「お茶」については、どうお感じでした？

宮崎 お茶って、形式がすごく強くて、それ自体完成されたものですね。お茶会をめぐる説明自体も機能的で、装置みたいなイメージですね。人を強制していながら、強制してないでいになっちゃうような危うさもあるし、参加した人の教養を試すハイコンテキストなところもある。開かれているけれど、同時に閉じてもいるというイメージをどう処理しようかと考えているところです。



F/T× アップリンククロスオーバー企画

——高木さんは、お茶ってどういうふうに捉えています？

高木 神村さんのいわれた、お茶はドラッグかもしれない、みたいなお話はすごく面白いですよね。実際にお茶を飲むと変な味だし。この間、お茶会みたいなワークショップに参加して、そこで濃茶をみんなで回し飲みしたんですけど、それも何か変な閉じた感覚があって、不自然というか、その「お茶」という装置の中に入って、そっちの方に自分が変えられるようなイメージはもちました。

神村 高木さんとは、あうるすぽっとで、日本女子体育大学の学生に振り付ける公演(「ぴちぴちちゃぶちゃんらんらん'18」、神村のほか、白神もこ、留福麻里が振付を担当した)をやったときに、音楽を担当してもらったんです。

高木 そのときに神村さんと話したのは、ダンスと音楽ってよくある組み合わせだけれど、どっちかが主でどっちかが従、みたいな関係ではないようにしたいね、と。今回もそこはそういう意識ですね。

神村 前にやったときには、それぞれ違う音源を入れた複数のラジカセをダンサーが持ち歩いて、勝手に再生したり止めたりすることでいろいろな音の組み合わせができる、というものでした。

今回は舞台が茶室なので、奥の方でござそやってるのがふすま越しに聞こえたりとか、ひとつ層を変えるだけでも音の聞こえ方が変わってくるので、そういう微細な効果もけっこう使えるなと私は考えてます。



F/T× アップリンククロスオーバー企画

——神村さんは、踊りにいわゆる美しさとか高度なテクニックとか、あるいは自己表現はあまりもちこまない、タスク(内面と分離された動作)を重んじるタイプの作品を作ってこれたと思います。そういう流れとこの作品は、どういうふうにつながっていますか？

神村 ここ数年、自分がダンサーとして内発的に踊ることとそれほど興味がもてなくなってきたんですね。コンセプトを外側に設けて、そこから自分にタスクを与えて、動かざるを得ない状況に投げ込むというやり方の方が、自分としてはやりやすかったです。

たぶん今回もこのメンバーの中でいろいろなタスクを共有するということはあると思うんですけど、今回は、踊っているときの自分の意識のあり方や感覚的なものも探りながら進める作品にしたいと思っています。動きの一つ一つをもっと慎重に選びながら置いていきたいなと。

私自身は、動きのシークエンスを自分で固定して踊ることがわりと苦痛な方なんです、人から与えられて覚えるのは別にいいんですけど。要は、自分でここがベストと決定したり、フォルムとか順番を決める根拠を見出せないんです。作ったときにはいいと思って、何回かやったらその形を内側から成り立たせていた感覚自体も変化してしまうので。

なので、最近はあるべくそれをしないですむようなやり方で作ってきたんです。条件だけ決めてあとはインプロとか、やらなきゃいけないタスクがあって、それによって動きが決まるとか。でも今回は、もっと自立した動き

を作ってみたくて、いまいろいろ試しているところです。今回は空間も狭いし、細かいところの一個一個に目が行く作りになっているので、音に耳を傾けたり、もののちょっとした角度に注目したりみたいな細部に集中する意識と、全体を漠然と感じる意識の両方を体験できる作品にしたいと思っています。

(インタビュー・文: 須川善行)

神村 恵 ダンサー・振付家

物質としての身体、言語により変容する身体、他者との関係によって動かされる身体など、身体をさまざまな側面から観察、再構築する作品を手がける。近年の主な作品に津田道子とのユニット「乳歯」による「知らせ#2」(17年、STスポット)、「報せ」(18年、SCOOL)など。

武本拓也(出演)

いるということへの関心を出発点に、自分1人での上演を行っています。武蔵野美術大学 映像学科 卒業。美学校 実作講座「演劇 似て非なるもの」第4期修了。ソロ公演に「正午に透きとおる」(2019.2)、「象を撫でる」(2018.5)など。

宮崎直孝(ミルク倉庫+ココナッツ主宰)

1974年神奈川県生まれ。武蔵野美術大学油絵学科卒[1998]、四谷アート・ステュディオム在籍[2005ー07]。循環系装置の研究・開発等。主なき器官たち、または、器官主体そのもの→《公的内臓》[《公的内臓》公開デモンストレーション][milkyeast(東京、2014)。

ミルク倉庫+ココナッツ

7人の異なった職能(電気設備、造園などの土木系技術や、建築、エディトリアルデザインなど)を複合体として含みこんだアーティストユニット。人間とモノ、あるいはそれらと技術の関係に可塑性を見出し、社会へ新たな思弁性を与える技術開発や実験などを制作として行う。代表的な発表として「アートプログラム青梅 ― 存在を超えて」(2012/東京都)、「無条件修復 UNCONDITIONAL RESTORATION」(2015/東京都/企画)[以上ミルク倉庫名義]、「家計簿は火の車」(2016/3331 GALLERY/東京都)、「清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2017 ― 身体ゆくえ」(2017/岐阜県美術館/岐阜県)などがある。

高木 生 (音楽)

tnwh、noobtastic名義で音楽活動を行う。空間を活かした音の配置や、音楽の意匠をあえて平板に捉えて、身体化されたサンプリング感覚を相対化するライブやアルバムをこれまでに発表。近年は主に歌と共有をめぐる問題に取り組む。2013四谷アート・ステュディオム第6回マエストロ・グwant受賞。